第一回 自興院浪曲会

天中軒すみれ

ゲスト 東家三可子

曲師 広沢美舟

若手浪曲師、秦野で唸る

秦野市北矢名

自興院本堂にて

2023年

9月10日(日)

開演 14:00

(開場 13:30)

一、天中軒すみれ
「お楽しみ」(30分)

一、東家三可子
「馬子唄しぐれ」(30分)
―仲入り―

一、天中軒すみれ
「徳川家康 今川家人質の巻」(30分)

自興院本堂：神奈川県秦野市北矢名 955　駐車場完備

◆東海大学前駅から 一部送迎車あり！（予約時に受付可能）

◆12:30 / 12:50 / 13:10 / 13:30　4便のみ（各定員4名）

木戸銭：2,000円　　定員：80名

ご予約
お問合わせ

090-1808-7547 kondoumotoo@ezweb.ne.jp（近藤祖雄）

090-8726-6396　s4500kenz.5200@docomo.ne.jp（長嶋建人）

第一回 自興院浪曲会

若手浪曲師 秦野で唸る！

浪曲とは？！

浪花節という日本の語り芸の一種。広沢虎造や村田英雄 二葉百合子の名前などは聞き覚えのある方も多いと思われる。
江戸時代に願人坊主が行なっていた「チョボクレ」や「あほだら経」などの大道芸がルーツとされ 明治時代に『浪花節』としてほぼ今の形になった。 レコードやラジオで人気が高まり、 1940年代まで何度かの黄金期を迎えた。最盛期には 3000人もいたという浪曲師人口は、現在では浪曲師・曲師合わせて全国で100人ほど。一時期存続が危ぶまれていたが、ここ数年で入門者が急増している。

◆プロフィール

【天中軒すみれ（てんちゅうけん すみれ）】

茅ヶ崎市出身。東京藝術大学 音楽学部 楽理科卒業。在学時に邦楽や民俗芸能の世界に魅了され、日本の声の表現に携わりたいという思いを強くする。
浪曲を聴いて「日本にこんなにも熱い語り物があったのか」と感動。2018年４月、五代目 天中軒雲月に入門。2023年１月29日 浅草木馬亭にて年季明け披露。東京 大阪のほか 地元茅ヶ崎でも浪曲公演を行なう。

【東家三可子（あずまや みかこ）】

秋田県横手市出身。
2016年、初めて生の浪曲に触れ、声の迫力 三味線と二人の掛け合いで作り出す世界に魅せられる。やがて『浪曲定席木馬亭』に通うようになり、様々な浪曲講座を受講。永谷のお江戸演芸スクールを通じて、現在の師匠に出会う。2018年 富士路子（五代目 東家三楽）に入門。約４年半の前座期間を経て、2022年11月、年季明け。

【広沢美舟（ひろさわ みふね）】

2015年５月に 日本浪曲協会主催の三味線教室に通い翌月には沢村豊子に入門志願。2016年４月１日 浅草木馬亭にて初舞台。2022年10月 伴侶の三代目広沢菊春襲名と同時に『広沢美舟』に改名した。

◆演目

【徳川家康　今川家人質の巻】天中軒すみれ
徳川家康、幼名を松平竹千代。６歳から二年間織田家の人質として過ごしていたが、織田・今川間で人質交換が成立し、今川家へ移され駿府で暮らす竹千代。ある時、三河から来たというみすぼらしい身なりの母子連れに会い、父広忠亡き後の松平家の窮状を知ることとなる。
竹千代11歳。家臣との向き合い。次期当主としての自覚の芽生え。

【馬子唄しぐれ】東家三可子
季節は秋、舞台は群馬県碓氷峠。
声自慢の馬子、治六は、若い侍をお客として乗せる。浅間山は紅葉が真っ盛り、美しい景色を満喫する侍。
治六が噂の声自慢と知り 馬子唄をリクエストするが……
☆：馬子： 馬をひいて人や荷物を運ぶことを職業とした人。
［うまかた］明治時代に入り、鉄道の整備に伴って衰微の道をたどっていくことになった。